



兵庫県埋蔵文化財情報

ひょうごの遺跡

平成20年(2008)
3月30日発行

67号

兵庫県立考古博物館

〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中500 TEL079-437-5589 FAX079-437-5599
ホームページアドレス <http://www.hyogo-c.ed.jp/~kokohaku-bo/>



田んぼの下から古墳を発見



1

東沢1号墳

加古川市八幡町上西条

東播磨南北道路建設に先立ち、発掘調査をしました。調査の結果、5世紀前半の方墳であることが明らかとなりました。遺体を埋葬する施設はすでに削平を受け、残っていませんでした。一辺が20mと大型で、方墳としては珍しく一部が張出す（造り出し）を備えている点が大きな特徴といえます。また、古墳の斜面には葺石が良好な状態で残っていました。



造り出し (つくりだし)

上から見た古墳の形は四角ですが、東側の一部が約1mほど突出していました。この場所を「造り出し」と呼びます。造り出しの幅は、約5mあります。ここで死者に対するお祭りを行ったものと考えられます。



造り出し東側の周溝内からは、たくさんの土器や埴輪が集中して出土しました。死者に対するお祭りに使われた、土器や埴輪と考えられます。土器では、高坏や器台が、埴輪では家形埴輪などが出土しています。



葺石 (ふきいし)

古墳の斜面には、たくさんの石が貼り付けられていました。これらの石を「葺石（ふきいし）」と呼びます。古墳の斜面を保護するための工夫と思われます。裾には大きな角ばった大きめの石が、それより上側は小さな河原石が使われています。



2

三田城跡

三田市天神

● 埋もれた堀と石列を発見



兵庫県立有馬高等学校講義棟建設に先立ち、発掘調査を行いました。調査の結果、江戸時代末に埋められた三田城の堀を発見しました。堀の縁には盛土がされており、その周囲には河原石が並べられていました。堀の内側からは三田城に関連する建物の跡や、江戸時代の土器や瓦が見つっています。

堀は地表から5.5mの深さまで掘削しましたが、底には到達しませんでした。調査区外に現在も堀として残っている部分まで続いていると思われます。



堀の縁には盛土がされており、防御のために築かれた土塁の痕跡と考えられます。盛土は、地山を平らに整地した後に、粘土混じりの土、砂、礫の順に積んでいます。残りの良いところでは、厚さ1mにもなり、土塁の構築が大がかりなものであったことが想像できます。



並べられた石



焼け跡がある平石

盛土の裾には、直径20cm前後の石が丁寧に並べられています。ほとんどが河原石ですが、途中に焼け跡の残る平石を並べているところがあります。平石を並べた目的はわかりませんが、施設の出入り口のような場所だった可能性も考えられます。

江戸時代末に描かれた『三田古地図』には、今回の調査範囲の北側にとぎれた空堀が描かれています。今回の調査で、ちょうどこの空堀が伸びてくる位置に南北の堀を発見することができました。このことから、絵図の空堀は、もともとは南北に続いていたこと判明しました。江戸時代末には空堀が不要となったため埋め戻されたのでしょう。

今回の調査では、三田城跡が有馬高校として利用されるにいたって、徐々に堀が埋められていった様子が判明しました。



『三田古地図』(三田市立三田小学校蔵)に重ねた今回の調査範囲

平成19年度 発掘調査報告会を開催しました。

平成20年3月2日、9日に県立考古博物館講堂にて掘り出されたふさと“ひょうご2008”を開催しました。今回紹介した遺跡を含む、県内の発掘調査報告を聞きに、両日合わせて約200名の方が参加されました。調査部では今後もこのような報告会を開催したいと考えています。



●平成19年度の主な発掘調査遺跡一覧 (No.15～35は出土品整理)

| 番号 | 遺跡名 | 所在地 | 事業名 | 遺跡の種類 |
|----|--------------|-----------|-------------------------------------|----------------------------|
| 1 | 小河江窯跡 | 豊岡市日高町 | 小河江地区十砂受入地整備事業 | 奈良時代の窯跡 |
| 2 | 英賀保駅周辺遺跡第4地点 | 姫路市 | 中播都市計画事業英賀保駅周辺十地区画整理事業 | 縄文時代～鎌倉時代の集落跡 |
| 3 | 津万遺跡群 | 西脇市 | 一般国道175号西脇北バイパス事業 | 弥生時代～古墳時代の集落跡 |
| 4 | 下加茂遺跡 | 洲本市 | 洲本川河川激甚災害対策特別事業 | 弥生時代の集落跡 |
| 5 | 西延末遺跡 | 姫路市 | J R山陽本線等姫路駅付近連続立体交差事業 | 弥生時代～古墳時代の集落跡 |
| 6 | ナベ遺跡 | 養父市八鹿町 | 一般国道483号北近畿豊岡自動車道和田山八鹿道路事業 | 古墳時代～奈良時代の集落跡 |
| 7 | 坂元遺跡他 | 加古川市 | (主)加古川小野線(東播磨南北道路)道路改築事業 | 弥生時代～中世の集落跡、及び古墳時代の古墳 |
| 8 | 曾我井・沢田遺跡 | 多可郡多可町 | (国)427号地域連携推進事業 | 奈良時代～鎌倉時代の集落跡 |
| 9 | 三田城跡 | 三田市 | 県立有馬高等学校講義棟新築事業 | 中世～近世の城館跡と弥生時代～中世の集落跡 |
| 10 | 仮称姫路駅周辺第3地点 | 姫路市 | 姫路警察署庁舎新築事業 | 弥生時代～平安時代の集落跡 |
| 11 | 英賀保駅周辺遺跡第4地点 | 姫路市 | 一般国道2号バイパス側道路整備事業(苦編地区) | 縄文時代～鎌倉時代の集落跡 |
| 12 | 山際古墳他 | 養父市八鹿町 | 一般国道483号北近畿豊岡自動車道和田山八鹿道路事業 | 古墳時代の古墳と中世の集落跡 |
| 13 | 今宿遺跡 | 姫路市 | 緊急街路整備事業 山吹線 | 中世の集落跡 |
| 14 | 山崎城跡 | 養父市八鹿町 | 中山間地域総合整備事業(広域連携型)レインボー南但地区万久里～三宅農道 | 中世山城と古墳時代の古墳 |
| 15 | 延吉遺跡 | 佐用郡佐用町 | 国道373号延吉道路地域連携推進事業(特改1種) | 弥生時代～中世の集落跡 |
| 16 | 土井遺跡 | 丹波市青垣町 | 一般国道483号春日和田山道路事業 | 縄文時代～古代末の集落跡 |
| 17 | 柿坪遺跡 | 朝来市山東町 | 一般国道486号春日和田山道路事業 | 弥生時代～古墳時代の集落跡 |
| 18 | 芝ヶ端遺跡他 | 朝来市山東町 | 一般国道489号春日和田山道路事業 | 弥生時代・中世の集落跡、古墳時代の墳墓 |
| 19 | 方谷遺跡 | 朝来市山東町 | 一般国道490号春日和田山道路事業 | 古墳時代～中世の集落跡 |
| 20 | 方谷古墳群 | 朝来市山東町 | 一般国道491号春日和田山道路事業 | 古墳時代の墳墓・落とし穴 |
| 21 | 芝花古墳群 | 朝来市山東町 | 一般国道493号春日和田山道路事業 | 弥生時代後期・古墳時代の墳墓 |
| 22 | 筒江大垣遺跡 | 朝来市和田山町 | 一般国道494号春日和田山道路事業 | 古墳時代～中世の集落跡 |
| 23 | 梶原遺跡他 | 朝来市山東町 | 一般国道495号春日和田山道路事業 | 縄文時代の落とし穴、古墳時代～奈良時代の集落跡・墳墓 |
| 24 | 楠・荒田町遺跡Ⅱ | 神戸市中央区 | 神戸大学医学部附属病院埋蔵文化財発掘調査 | 平安時代末の堀・櫓跡 |
| 25 | 石守庵寺 | 加古川市 | 一般県道平荘大久保線交通安全施設等整備事業(統合補助) | 奈良時代の寺院 |
| 26 | 北条遺跡 | 姫路市 | J R山陽本線等連続立体交差事業 | 弥生時代～平安時代の集落跡 |
| 27 | 今宿遺跡Ⅰ | 姫路市 | (街)山吹線緊急街路整備工事 | 奈良時代の瓦溜 |
| 28 | 山吹・今宿遺跡Ⅱ | 姫路市 | (街)山吹線緊急街路整備工事 | 弥生時代～鎌倉時代の集落跡 |
| 29 | 土師遺跡 | 姫路市香寺町 | 一般県道中寺北条線交通安全施設等整備事業 | 古墳時代の墳墓、飛鳥時代の集落跡 |
| 30 | 沢槽・サルガク遺跡 | 神崎郡市川町 | (一)長谷市川線道路改良事業 | 弥生時代～近世初頭中世の集落跡 |
| 31 | 赤穂城下町遺跡 | 赤穂市 | (街)赤穂駅前大石神社線・電線共同溝整備事業 | 江戸時代の城下町・上水道 |
| 32 | 平瀬遺跡他 | 佐用郡佐用町 | 国道373号地域連携推進事業(特改1種) | 中世の集落跡・寺院 |
| 33 | 野脇遺跡他 | 養父市建屋 | (主)養父朝来線緊急道路整備工事 | 弥生時代～古墳時代の集落跡、室町時代の庭園跡 |
| 34 | 楠・荒田町遺跡Ⅲ | 神戸市兵庫区荒田町 | (財)兵庫県健康財団新施設建設 | 弥生時代・中世の集落跡 |
| 35 | 戸牧1号窯跡他 | 豊岡市戸牧 | 公立豊岡病院移転新築整備事業 | 飛鳥時代の窯跡、古墳時代の墳墓 |
| 36 | 野田窯跡 | 加西市 | 青野運動公苑土地信託事業 | 古墳時代の窯跡 |

北近畿豊岡自動車道和田山八鹿道路建設に伴い、面積約6000㎡について発掘調査を行いました。

調査の結果、縄文時代・古墳時代・奈良時代・平安時代の遺構・遺物が見つかりました。このうち、主となるものは古墳時代と奈良時代の集落跡です。集落跡は円山川の支流である八木川南岸の段丘上で、丘陵裾部の緩斜面に広がっていました。また、集落の縁辺部では古墳時代前期から平安時代後期にかけての粘土採掘坑が見つかりました。

古墳時代については竪穴住居跡8棟・掘立柱建物跡1棟が見つかりました。後の耕作地の造成に削り取られている部分が多いですが、古墳時代前期から後期にかけて長期間集落が営まれたことが分かりました。八木川を挟んだ北側の対面には前方後円墳を含む県指定史跡国木とが山古墳群が存在しています。川を挟んで南に集落、北に墓が営まれるという当時の生活空間のあり方が明らかとなりました。

奈良時代については掘立柱建物跡が10棟見つかりました。桁行5間（12m）、梁行2間（5m）という大型の建物を含み、明確な計画性は認められませんが、ほとんどの建物が東西方向を向いています。奈良時代には調査地の近隣地に古代山陰道が開通し、計画的に開発が進められたと考えられていますが、今回見つかった集落もその一端を示すものと言えるでしょう。

● 古墳時代の住居跡について

古墳時代の竪穴住居跡には平面が円形・多角形・方形のものが見つかりました。特に古墳時代初頭（庄内期）の多角形住居（直径推定11m）と古墳時代前期（布留期）の円形住居（直径10m）とは非常に規模の大きいものです。

多角形住居は近畿・中国・北陸地方で散見されますが、山陰地方で最も多く見つかっています。

円形住居は弥生時代によく見られるものですが、古墳時代前期にまで下るものは兵庫県下ではほとんど例がない珍しいものです。隣接する鳥取県では弥生時代的な円形住居が古墳時代にまで一般的に使われています。

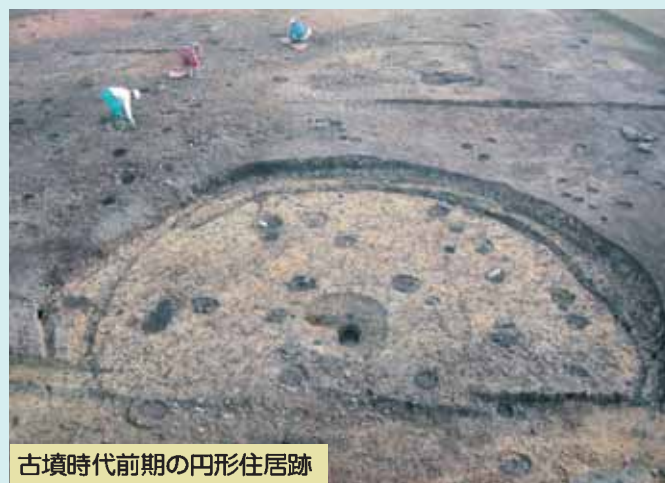
今回見つかった住居跡は山陰地方との交流を示すものといえるでしょう。



古墳～平安時代の粘土採掘坑



古墳時代前期の建物跡



古墳時代前期の円形住居跡



古墳時代初頭の多角形住居跡



奈良時代の建物群



奈良時代の大型建物跡

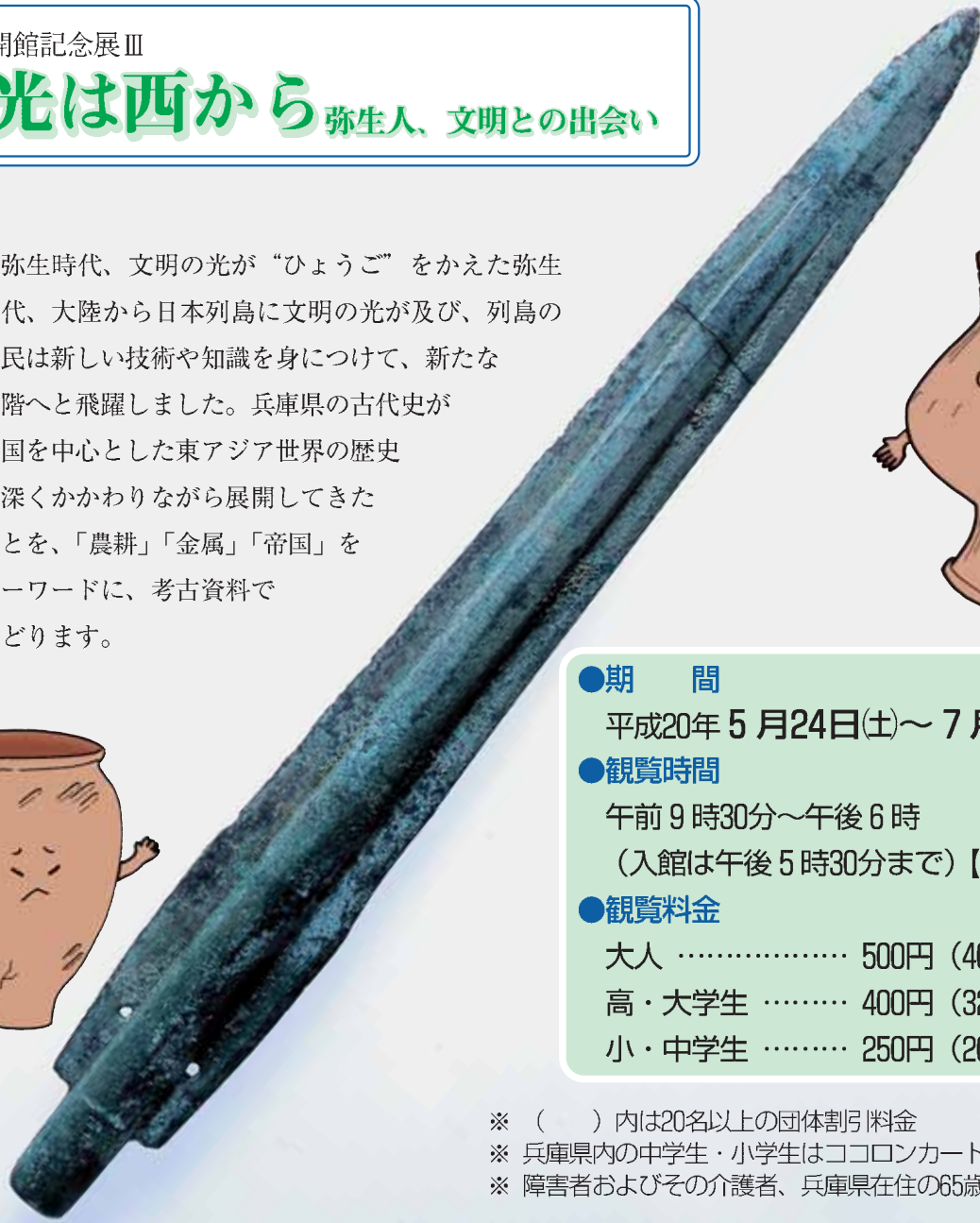


ナベ遺跡全景（西から）

開館記念展Ⅲ

光は西から 弥生人、文明との出会い

弥生時代、文明の光が“ひょうご”をかえた弥生時代、大陸から日本列島に文明の光が及び、列島の住民は新しい技術や知識を身につけて、新たな段階へと飛躍しました。兵庫県の古代史が中国を中心とした東アジア世界の歴史と深くかかわりながら展開してきたことを、「農耕」「金属」「帝国」をキーワードに、考古資料でたどります。



●期 間

平成20年 5月24日(土)～7月6日(日)

●観覧時間

午前9時30分～午後6時

(入館は午後5時30分まで)【月曜日休館】

●観覧料金

大人 …………… 500円 (400円)

高・大学生 ……… 400円 (320円)

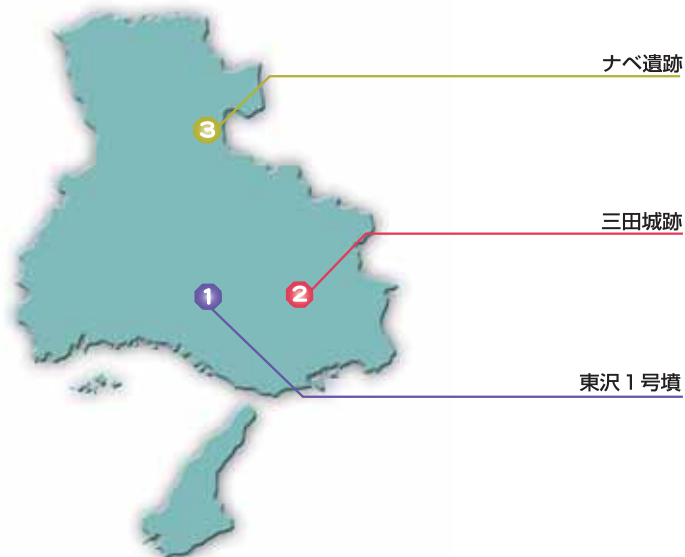
小・中学生 ……… 250円 (200円)

※ () 内は20名以上の団体割引料金

※ 兵庫県内の中学生・小学生はココロンカード提示で無料

※ 障害者およびその介護者、兵庫県在住の65歳以上の方は半額

今回紹介した遺跡の位置



○ 編集後記 ○

ひょうごの遺跡第67号をお届けします。平成19年度の下半期に発掘調査を実施した遺跡を紹介しています。今回紹介できた遺跡は3遺跡ですが、この他にも多可町曾我井・沢田遺跡や、養父市山際古墳など紹介しきれなかった遺跡があります。これらの遺跡は次号以降のひょうごの遺跡で紹介していきたいと考えています。

この冬の調査では、近年になく雪に悩まされました。地球温暖化が危惧されるなか、まだまだ冬の調査は寒さが厳しいことを感じました。



触れる・体感する、考古学のワンダーランド。

兵庫県立考古博物館

兵庫県加古郡播磨町大中500 TEL.079-437-5589
<http://www.hyogo-c.ed.jp/~kokohaku-bo/>

